

平成30年度 道路局運営方針

1 基本目標

「チーム道路」の総力を結集させ、市民生活や横浜経済を支える強靱な都市基盤を構築し、安全・安心で愛される道路・河川空間づくり、災害に強いまちづくりを実現します。

2 目標達成に向けた施策

新たな中期計画の基本的方向を踏まえ、3つの視点から取組を進めます。

(1) 横浜の持続的な成長・発展を支える都市基盤の整備 ～都市の骨格を強固なものとし、活力あるまちへ！～

横浜環状道路の早期整備を実現することで、高速道路ネットワークを充実させ、横浜港の国際競争力の強化をはじめとする広域的なアクセス性の強化、災害時のリダンダンシー（多重性）の確保、幹線道路における渋滞の緩和などを図ります。

都市計画道路等の整備を着実に進め、市民生活における利便性・安全性向上、市域の一体化を図るとともに、ボトルネックとなっている交差点の渋滞対策、「開かずの踏切」の解消に向けた連続立体交差事業等にも積極的に取り組みます。

米軍施設返還跡地の利用など、まちづくりにあわせた効果的な道路整備を進めます。



整備中の横浜環状北西線

(2) 市民生活の安全・安心の確保 ～市民生活を守り、災害に強い安全・安心なまちへ！～

激甚化する自然災害や切迫する巨大地震による被害を最小限に抑えるため、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を着実に進めるとともに、無電柱化の推進等に取り組みます。

様々な施策を実行し、生活道路や通学路における安全対策を進めることで、子どもや高齢者など誰もが安全・安心に利用できる道路空間を実現します。

老朽化する施設が加速的に増加する中で、計画的な保全・更新、日々の維持管理に加え、道路照明のLED化等による環境対策を進めることより、将来にわたる安全性の確保を図ります。



水防災情報システム(洪水時カメラ画像)

(3) 魅力あるまち・みちづくり ～魅力や利便性を向上し、愛されるまちへ！～

歩行空間のバリアフリー化や自転車利用環境の向上に取り組むとともに、市民に身近なバス・タクシー等の地域交通の維持・充実など、まちの利便性の向上に取り組みます。

「健康寿命日本一」の実現に向けた健康みちづくり等の推進、生物多様性に配慮した河川環境の整備などにより、まちの魅力を高めていきます。（緑区山下地区）

「ハマロードサポーター」や「水辺愛護会」の道路・河川の美化活動支援や、子ども達の身近な自然体験活動の場となる「水辺の楽校」開催の支援など、市民・事業者・学校など、多様な主体との協働による取組を進めます。



地域の共助によるボランティアバス

（緑区山下地区）

3 目標達成に向けた組織運営

これまで受け継がれてきた「技術力」を組織的に継承し、人材育成に取り組むとともに、職員が意欲と能力を最大限発揮できる職場環境づくり、ワーク・ライフ・バランスや業務の効率化を意識して働き方改革に取り組めます。

また、市民の皆様や社会からの要請に全力で応える意識を職員一人ひとりが持ちながら、道路局、土木事務所が「チーム道路」で一丸となって取り組めます。

